

## 会議議事録

会議名	2023年度第2回看護分野教育課程編成委員会
対象学科	看護科
開催日時	2024年2月6日(火) 15:00~17:00
場 所	早稲田速記医療福祉専門学校 1階・会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事)、小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長) (計2名) ②本校委員：川口拓也(校長)、伊東由美(看護科学科長)、榊原幸之(事務局長)、岡本隆行(看護科教員)、渡邊明子(看護科教員)、前田律子(オブザーバー) (計6名) ③事務局：安里良美(1名)  (合計9名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付：資料1：2023年度第1回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2：前回委員会以降の主な経過報告 資料3-1：キャリアデザインⅡ シラバス 資料3-2：運営資料 資料3-3：会場図 資料3-4：実践資料(合同PPT事例) 資料3-5：グループワークまとめ資料 資料3-6：介護福祉科との合同授業アンケート結果 資料3-7：自己評価シート 資料4：2024年度のカリキュラム案(私の目指すpart1の課題)
議 長	伊東学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶 今、全般的に医療系の人気下がっている。一方、就職はほぼ内定が出ており、中にはいきなり美容医療に行ってしまう学生も若干いる。最近の学生の特徴として、メンタリティーが弱く、目の前の楽しさや楽なほうを求める傾向がある。 本日は、介護福祉科と看護科の合同授業について詳細な報告があるかと思う。魅力的な教育ができるよう、アドバイスを含め、忌憚のないご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1) 議長より前回議事録(案)について諮ったところ、特段の意見はなく、一部の誤字を修正の上、個人情報に配慮して保存・公開することが確認された。</p> <p>3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2) 担当者より資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び質問・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>4. 2023年度の活動報告 ①新カリキュラム実践報告 キャリアデザインⅡ報告(資料3-1~3-7) 学科長より、資料3-1~3-7に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び質問・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>5. 2024年度のカリキュラム等 ①キャリアデザインⅡ 私の目指す看護 Part1 2023年の課題を踏まえて(資料4) 学科長より、資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び質問・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>6. 次回日程、その他 ・2024年度第1回委員会 ①2024年度カリキュラム案へのご意見伺い 他</p>

以上

## 2023 年度第 2 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

### 3. 前回委員会以降の主な経過報告

○榊原事務局長より、以下の説明があった。(資料 2)

- ・退学状況
- ・就職状況
- ・授業アンケート
- ・募集状況

○伊東学科長より、以下の補足説明があった。

- ・就職は全体の動き出しが早く、3 年生になる頃には面接を受けて内定待ちという学生が多い。
- ・美容系に進む学生がいる。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>・職業選択を問う質問に対して、今は、ユーチューバーになりたいと答える人が多いと聞く。病院も中学生ぐらいを対象に看護体験をさせて、なり手を増やしていく努力をしないといけない。</p> <p>・看護科の入試に関して、職員寮を学生に開放すると言ったら応募が多くなった。入試科目も減らしたが、基礎学力の低下は気になる。</p> <p>・外国人看護師の採用で、近年、特徴的なことはあるか。</p>	<p>・子供が憧れる職業の中で看護師は上位にあるので、小さいときに看護体験をさせるのはよいかもしれない。</p> <p>・コロナの弊害で医療系がダウンしたことで、地方の学生が東京に来なくなっていることが大きい。</p> <p>・本校も去年から英語をなくすなど、受験科目の見直しをしたが、基礎学力に不安を抱える学生もいる。</p> <p>・介護福祉科の留学生の中には、現地の看護師資格を持っている人がいる。そこを何とかしたい。</p> <p>・4 年間かけて日本の国家試験に合格し働いている。外国人看護師の採用に関するハードルは高くない。患者さんの側にも抵抗はない。</p> <p>・今は看護師が枯渇している状況なので、日本語ができて、ラベルをちゃんと読み取れ、インシデントなくやれば需要はあると思う。</p>

### 4. 2023 年度の活動報告

①新カリキュラム実践報告

キャリアデザインⅡ報告 (資料 3-1～資料 3-7)

○伊東学科長より、資料 3-1～3-7 に基づき、合同授業の位置付け、計画、具体的な展開、学生の感想、自己評価などについて詳細な説明が行われた。

(学生のアンケートから)

- ・多職種連携のイメージがつかめた。
  - ・原因が同じでも対策が違った。
  - ・看護科は数値や身体状態を見て原因・対策を考えていたが、介護科は多職種に目を向けて対策を考えていた。
  - ・違う職種だが、同じ視点で検討することができることが分かった。
  - ・多職種と話し合うことで、様々な視点からのアプローチが見えてくる。
  - ・同じ学校で勉強していたのに交流がなかったのが、とても良かった。
  - ・もう少し難易度を上げて学びを深めたほうがよかった。
- (今後に向けて)
- ・実習の時期としてはよかったが、事例の設定はもう少し探っていく必要がある。
  - ・多職種連携を具体的に理解できるように取り組んでいきたい。
  - ・発表の時間を長く取り、互いに共有できるようにしたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の反応を見ると、とてもいい学びができたのではないと思う。</li> <li>・褥瘡はどちらにも共通するよいテーマだった。</li> <li>・グループワークの仕方も効果的だった。</li> <li>・ナースはデータばかりに目が行くので、生活や患者の思いも含めた着眼点を介護福祉科の学生から学べるのはよいことだ。</li> <li>・絶対に楽しいと思う。</li> </ul> <p>・事例の出し方が重要になってくると思う。</p> <p>・入試のときに、他科との交流ができることを本校を選んだ理由に挙げていた人がいた。1 コマだけで終わらせるのではなく、交流が続いていくとよいと思う。</p> <p>・今回の取り組みは総じてうまくいったという印象を持っているが、課題を見いだすとすれば、介護を経験した学生からもっと難易度の高いことにも取り組みたいとの意見が出ているところだと思う。2 つの科同士の単なる化学反応や職種の違いを知るだけでなく、根拠になる法律の違いを示し、立ち位置が違うことを理解しながら意見交換をすると、気づきも一層深まるのではないと思う。</p> <p>・玉石混濁の学生たちの中で光り輝く意見を引き出せるような教育を仕組みとしてつくっていかねばならないと思った。</p> <p>・次の段階として、例えば食事療法や摂食ケアで、体重が1キロ以上増加するという目標に看護と介護が一緒にどうアプローチするかなど、具体的な計画があるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの発表があると、学びがより深まると思う。</li> <li>・病院と老健施設で介護福祉士と看護師が一緒に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の先生がレクリエーション的なことに長けていて、楽しく取り組むことができた。</li> </ul> <p>・他科と交流し、楽しく学ぶ機会を増やしていければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設と病院をお互いにイメージし合えるとよいと思う。</li> <li>・来年、東京都専修学校各種学校協会でご</li> </ul>

ワークをすると、勤務する場所によって役割が違 うことも見えてくるのではないか。	の取組を発表することになった。今後もい ただいた意見を参考にして取り組んでいき たい。
--------------------------------------------	---------------------------------------------------

5. 2024年度のカリキュラム等

①キャリアデザインⅡ 私の目指す看護 Part1 2023年の課題を踏まえて（資料4）

○伊東学科長より、以下の説明が行われた。

- ・1年半学んできたことを看護観として文章にまとめ、残りの1年半を自分の成長につなげてほしいとの思いから、従来の戴帽式の代わりとして行った。

（学生のアンケートから）

- ・看護観を書くのは大変だったが、1年半の区切りとして文章にしてよかった。
- ・実習の後だったので、実習の経験を生かして書けたところはよかった。
- ・発表までの時間が短かった。
- ・時期的に終講テストと重なり、つらかった。

（次年度に向けて）

- ・時期や進め方に課題もあったが、発表のときにいただいた学務課や他科の教職員からの応援メッセージが非常によかったという意見が多かった。次年度もいろいろな方からの協力や応援を得ながら、それに応えられるように進めていきたいと思う。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護観というとハードルが上がるので、もう少し平たい言葉にできないか。1年半学んだ中で、自分の感情がどのように変化したのか、どんな看護師になりたいのか、看護師になって何を提供したいのかなど、自由な発想で書いてもらい、そこに応援メッセージがあるとよい。</li> <li>・病院では自分たちの成長過程を一個のファイルにしてポートフォリオを作るが、学生のポートフォリオはあるのか。</li> <li>・その中に書いたものを入れておくと、自分の軌跡が見えてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリアデザイン」のファイルに、1年生から3年生までの評価表などを綴じ込んでいる。</li> <li>・たくさんの工夫の余地があるので、ご意見をもとに進めていき、自分の考えを持った看護師が育つよう支援していきたい。</li> <li>・合同授業はずっとやりたかったことで、ようやく実現できた。互いに話し合う中で共通項と相違点を発見できたことはよかったと思う。</li> <li>・想像以上に専門用語が飛び交い、会話が成り立っていた。将来、もっとカンファレンス慣れするという意味で、1回だけでなく何度かやっていくことが必要だと思う。</li> <li>・介護科には3分の1ぐらい留学生がいる。外国人とのコミュニケーションに慣れることも武器になると思う。</li> </ul>

以上